

2026 年 7 月 13 日

東急不動産ホールディングス株式会社

「環境先進マンションBRANZグリーンボンド」 発行に関するお知らせ

東急不動産ホールディングス株式会社（本社：東京都渋谷区、代表取締役社長：星野浩明、以下「当社」）は、公募形式のグリーンボンド「環境先進マンションBRANZグリーンボンド」の発行（以下「本発行」）を予定しておりますのでお知らせいたします。

■本発行の目的および背景

当社は長期ビジョン「GROUP VISION 2030」において、「WE ARE GREEN」をグループの旗印に掲げ、目標年度である2030年に向かって魅力あふれる多彩なライフスタイルの創造を通じて誰もが自分らしく、いきいきと輝ける未来の実現を目指しています。そのために、「環境経営」を全社方針のひとつに据え、「脱炭素社会」「生物多様性」「循環型社会」という3つの環境重点課題に取り組みながら事業活動を進めております。

今般、これらの環境課題解決へのコミットメントをより強固なものとするため、「環境先進マンションBRANZグリーンボンド」を発行することといたしました。

環境先進マンションBRANZグリーンボンドは、3つの環境重点課題の全てに資する取り組みである（仮称）千代田区三番町計画に係る支出を資金使途とし、当該プロジェクトは高断熱化と省エネ設備の導入、再エネ活用の推進による高い環境性能と運用時のゼロエミッション化を目指した脱炭素志向型住宅となります。

また近年、自然災害の激甚化等を背景に、住まいには環境性能に加えて、災害時の生活継続性（レジリエンス）向上が求められています。当社は、分譲マンションにおいて「在宅避難」を支える機能の確保に取り組み、停電・断水等のインフラ寸断時に配慮した電源・給水の確保を通じて、平常時から災害時まで安心・安全な暮らしの実現に貢献するとともに、環境先進マンションの価値向上にもつなげてまいります。

今後も「WE ARE GREEN」ボンドポリシーに基づき、ESG債を継続発行し、債券投資家を含むステークホルダーの皆様とともに、サステナブルな社会の実現と成長を目指します。当社は長期ビジョン「GROUP VISION 2030」において、「WE ARE GREEN」をグループの旗印に掲げ、目標年度である2030年に向かって魅力あふれる多彩なライフスタイルの創造を通じて誰もが自分らしく、いきいきと輝ける未来の実現を目指しています。そのために、「環境経営」を全社方針のひとつに据え、「脱炭素社会」「生物多様性」「循環型社会」という3つの環境重点課題に取り組みながら事業活動を進めております。

東急不動産ホールディングス「WE ARE GREEN」ボンドポリシーについて

<https://www.tokyu-fudosan-hd.co.jp/ir/stockandbond/sustainabilityfinance/>

■本発行の概要

名称	東急不動産ホールディングス株式会社 第 37 回無担保社債 (社債間限定同順位特約付) (グリーンボンド)
別称	環境先進マンション BRANZ グリーンボンド
発行年限	3 年
発行額	100 億円
発行時期	2026 年 7 月 (予定)
資金使途	環境先進マンション「BRANZ」(仮称) 千代田区三番町計画に係る設備資金等 (省エネ・再生可能エネルギー活用等による環境性能向上および在宅避難に資する非常時の電源・給排水等の確保に関する設備等を含む)
主幹事	野村證券、S M B C 日興証券、三菱 U F J モルガン・スタンレー証券、 大和証券、みずほ証券

本発行は、サステナビリティファイナンス・フレームワークに基づき行われます。なお、サステナビリティファイナンス・フレームワークは株式会社日本格付研究所 (J C R) より「J C R サステナビリティファイナンス・フレームワーク評価」において最上位評価である「S U 1 (F)」の評価^{※1}を取得しています。

※1 J C R サステナビリティファイナンス・フレームワーク評価は J C R ホームページをご参照ください。

<https://www.jcr.co.jp/greenfinance/>



東急不動産「ブランズ」BRANZ URL : <https://sumai.tokyu-land.co.jp/concept/>

WE ARE GREEN

■本発行の詳細

【環境先進マンション BRANZ グリーンボンド】

【環境先進マンション BRANZ グリーンボンド】で調達した資金は、（仮称）千代田区三番町計画に充当します。

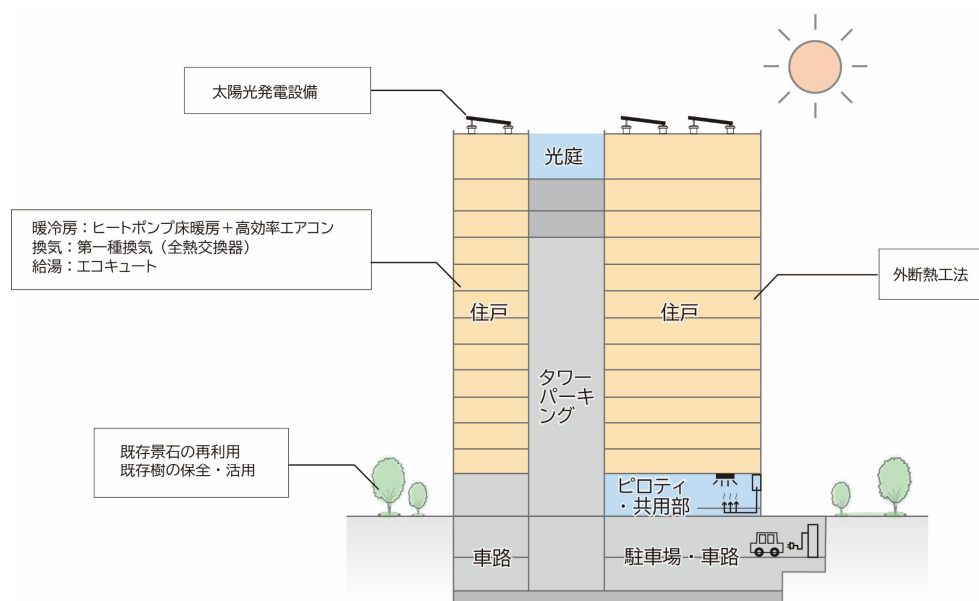
■（仮称）千代田区三番町計画

所在地：東京都千代田区

延床面積：21,267.14 ㎡（予定）

住戸数：130 戸

環境への取り組み等	具体的な内容（予定）
BELS 5 つ星もしくは 4 つ星 （ZEH-M Oriented 水準）	ZEH-M Oriented（住戸）取得予定
CASBEE の S ランク or A ランク	取得予定
再生可能エネルギー活用	屋上に太陽光設置予定。共用部は再エネ電力メニュー契約、専有部にも再エネ電力メニューの契約を推奨する等、運用時 CO2 排出量を削減
高断熱化および省エネ設備	高断熱化とともに、高効率エアコン、ヒートポンプ式温水床暖房、エコキュート、全熱交換器等の省エネ設備を導入
躯体の長寿命化	外断熱工法による外側からの躯体保護で躯体を長寿命化
リサイクル資材および既存資材の利活用	アルミサッシ（通常製品より製造時 CO2 を削減）をはじめとした各種リサイクル資材・FSC 認証材を活用
レジリエンスに関する設備	インフラ寸断時を想定した電源・給排水等の確保（災害発生後 72 時間程度を目安）に資する設備・計画の導入予定



■ 長期ビジョン「GROUP VISION 2030」と「中期経営計画 2030」について

東急不動産ホールディングスは2021年に長期ビジョン「GROUP VISION 2030」を発表しました。多様なグリーン
の力で2030年にありたい姿を実現していく私たちの姿勢を表現する「WE ARE GREEN」をスローガンに、
「環境経営」「DX」を全社方針として取り組んでいます。

HDの中核企業である東急不動産では「環境先進企業」をめざして様々な取り組みを積極的に進めております。
2022年末には事業所及び保有施設^{※3}の100%再生可能エネルギーへの切り替えを完了し、2024年にはRE100事
務局より「RE100」の目標達成を、国内事業会社として初めて認定されました。

2025年5月には東急不動産ホールディングスは2030年度を目標年度とする「中期経営計画 2030」を策定
し、「広域渋谷圏戦略の推進」「GX ビジネスモデルの確立」「グローバルビジネスの拡大」の3つの重点テーマ
に取り組み、強固で独自性のある事業ポートフォリオの構築をめざします。

※3 一部の共同事業案件などを除く

東急不動産ホールディングス「GROUP VISION 2030」について

<https://www.tokyu-fudosan-hd.co.jp/group-vision-2030/>

東急不動産ホールディングス「中期経営計画 2030」について

<https://www.tokyu-fudosan-hd.co.jp/ir/mgtpolicy/mid-term-plan/>